

同和問題（桃票）

問 11 あなたは、ここ2～3年の間に「同和地区（同和対策事業を実施した地域）」に対する差別的な発言や言動を日ごろの暮らしの中で直接見たり聞いたりされたことがありますか。どちらかに○をつけてください。

	回 答 者 数	対総回答者数比
ある	126	12.32%
ない	857	83.77%
無効・無回答	40	3.91%

（有効回答 983人 回収数比 96.18%）

問 12 同和地区に対する差別的な発言や言動を見たとき、あなたはどうされましたか。次のうちから、あなたがとった行動に近いものの番号すべてに○をつけてください。（問11で「ない」と答えられた人も、見たり聞いたりしたときに自分がとると思う行動について、お答えください）

	回 答 者 数	対総回答者数比
差別と気付いたが、何もできなかった	400	47.28%
そのときは差別と気付かずに、見過ごした	303	35.82%
誤りを指摘し、話し合った	159	18.79%

（総回答者数 846人 回収数比 82.78%）

問 13 あなたは、現在、同和地区の人に対する差別や人権侵害があると思いますか。次の(A)～(G)それぞれについて、あなたの意見に最も近いものの番号1つに○をつけてください。

	よくある	たまにある	な い	わからない	無効・無回答
(A) 結婚や交際	98 9.58%	326 31.87%	182 17.79%	344 33.63%	73 7.14%
(B) 就職のときや職場	37 3.62%	156 15.25%	394 38.51%	350 34.21%	86 8.41%
(C) 地域・近所づきあいや、 住まいの問題	48 4.69%	191 18.67%	403 39.39%	303 29.62%	78 7.62%
(D) 学校等	12 1.17%	81 7.92%	502 49.07%	338 33.04%	90 8.80%
(E) 日常の会話	18 1.76%	160 15.64%	515 50.34%	246 24.05%	84 8.21%
(F) インターネット上の誹謗・ 中傷するような書き込み	33 3.23%	78 7.62%	269 26.30%	551 53.86%	92 8.99%
(G) 誹謗・中傷するような落 書き	19 1.86%	87 8.50%	390 38.12%	440 43.01%	87 8.50%

有効回答：回収数比 (A)950人：92.95% (B)937人：91.68% (C)945人：92.47% (D)933人：91.29%

(E)939人：91.88% (F)931人：91.10% (G)936人：91.59%

問 14 問 13 の(A)～(G)それぞれについて、あなたは、近い将来、それらの同和地区の人に対する差別や人権侵害をなくすことが出来ると思いますか。あなたの意見に最も近いものの番号 1 つに○をつけてください。

	完全になくす ことができる	かなりなくす ことができる	なくすことは 難しい	差別はな い	無効・ 無回答
(A) 結婚や交際	99 9.68%	468 45.75%	255 24.93%	119 11.63%	82 8.02%
(B) 就職のときや職場	209 20.43%	363 35.48%	127 12.41%	222 21.70%	102 9.97%
(C) 地域・近所づきあいや、 住まいの問題	163 15.93%	377 36.85%	168 16.42%	220 21.51%	95 9.29%
(D) 学校等	234 22.87%	315 30.79%	86 8.41%	275 26.88%	113 11.05%
(E) 日常の会話	203 19.84%	336 32.84%	104 10.17%	279 27.27%	101 9.87%
(F) インターネット上の誹謗・ 中傷するような書き込み	117 11.44%	288 28.15%	278 27.17%	196 19.16%	144 14.08%
(G) 誹謗・中傷するような落 書き	135 13.20%	337 32.94%	217 21.21%	198 19.35%	136 13.29%

有効回答：回収数比 (A)941人：92.07% (B)921人：90.12% (C)928人：90.80% (D)910人：89.04%
(E)922人：90.22% (F)879人：86.01% (G)887人：86.79%

問 15 もし、あなたが、家を購入したり、アパートを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区や同和地区と同じ小学校区にある物件を避けることがあると思いますか。あなたの意見に最も近いものの番号 1 つに○をつけてください。

	回 答 者 数	対総回答者数比
避けると思う	90	8.80%
同和地区にある物件は避けるが、同じ小学校区にある 物件は避けないと思う	187	18.28%
こだわらない	445	43.50%
わからない	254	24.83%
無効・無回答	47	4.59%

(有効回答 976人 回収数比 95.50%)

問 16 あなたは、同和問題の解決や差別をなくすために、次の(A)～(D)それぞれの意見はどの程度重要だと思いますか。あなたの意見に最も近いものの番号1つに○をつけてください。

	そう思う	そう思わない	どちらとも言えない	無効・無回答
(A) 一般的な行政施策の中で、同和地区住民の自立を支援する	230 22.48%	280 27.37%	410 40.08%	103 10.07%
(B) 「同和地区」のことや「差別」があることを口に出さないで、そっとしておけば「差別」はなくなる	300 29.33%	339 33.14%	299 29.23%	85 8.31%
(C) 学校教育・社会教育を通じて、差別意識をなくし、人権を大切にす教育・啓発活動を積極的に行う	504 49.27%	135 13.20%	292 28.54%	92 8.99%
(D) 「差別」をしたり、「差別」を営利目的に使う者を法律で処罰する	369 36.07%	185 18.08%	356 34.80%	113 11.05%

有効回答：回収数比 (A)920人：90.02% (B)938人：91.78% (C)931人：91.10% (D)910人：89.04%

桃票の問 11 から問 16 までは、同和問題について質問した。

■ 差別的言動の目撃体験

問 11 では、ここ 2～3 年の間での同和地区に対する差別的な言動を目撃・体験したことがあるかどうかを質問した。

同和地区に対する差別的な言動を見聞きしたことが「ある」と回答した人は 12.32%であった。

H18 調査では「ある」と回答した人は 14.6%で、ほぼ同水準で推移している。

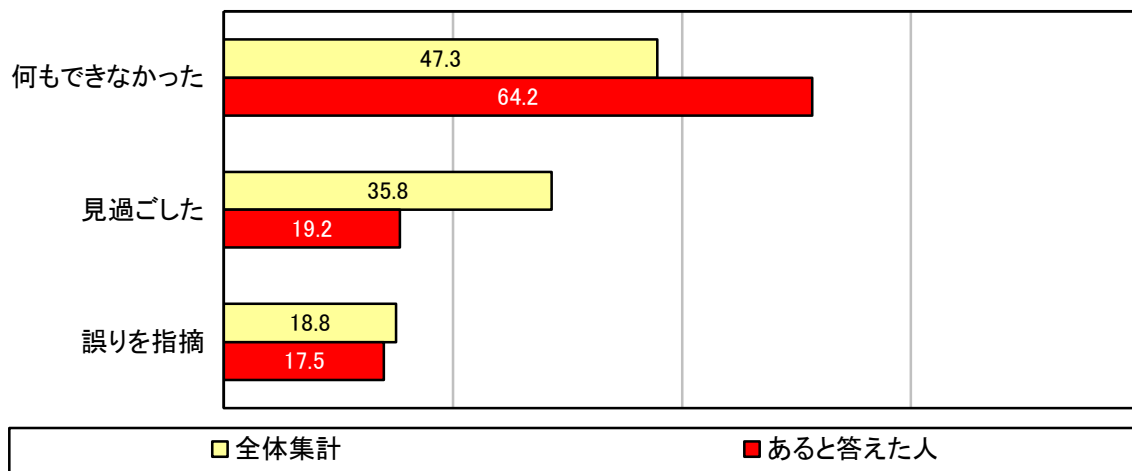
■ 差別的言動を目撃したときの行動

問 12 では、差別的言動を見聞きしたとき、どのような行動をとるのかを「同和地区に対する差別的な発言や言動を見たとき、あなたはどうされましたか」という質問で調べた。

なお、問 11 で「ない」と回答した人には、もし見聞きしたとしたら、自分がどのような行動をとると思うかについて回答してもらった。

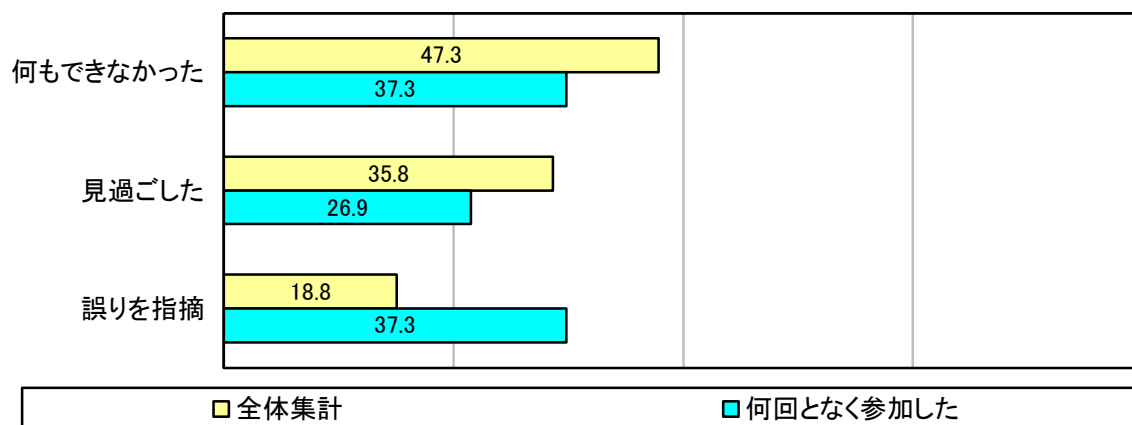
もっとも多かったのは、「差別とは気づいたが、何もできなかった」で回答した人のうち、47.23%の人が答えている。次に、「そのときは差別と気づかずに見過ごした」で 35.77%、最も少なかったのが「誤りを指摘し、話し合った」で 18.77%であった。

回答比較（問11で同和地区に対する差別的言動を目撃したことが「ある」と答えた人）



問11で差別的言動を目撃したことが「ある」と回答した人のそのときの行動を見ると、「何もできなかった」人が64.17%、「気づかず見過ごした」が19.17%、「誤りを指摘した」が17.50%となり、何もできなかったと答える人が増加している。

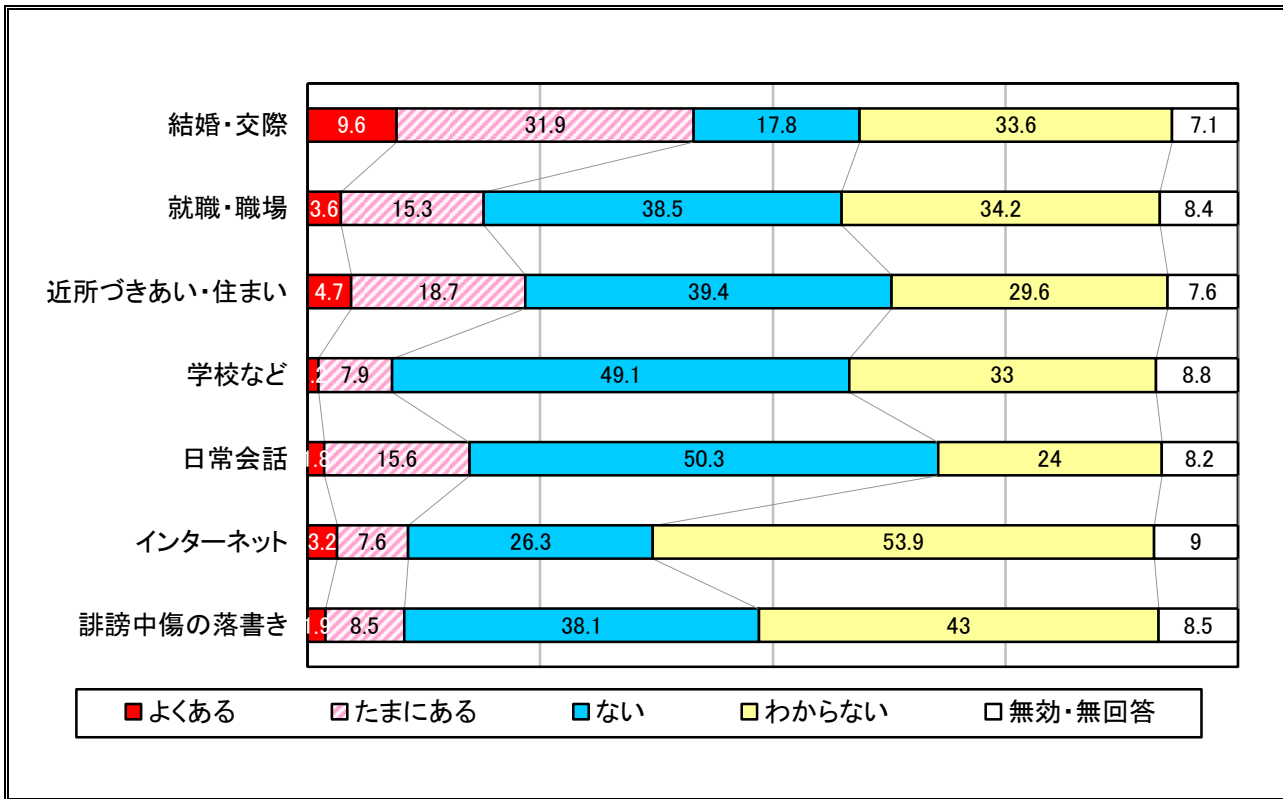
回答比較（講座・講演会の参加状況別）



問28の「ここ2～3年のうちに講演会・講座などに参加されたことがありますか」という質問で、「何回となく参加したことがある」と答えた人の回答では、「何もできなかった」人は37.31%、「気づかず見過ごした」人が26.87%、「誤りを指摘した」人が37.31%と、「誤りを指摘した」という回答が大幅に増えている。

■ 差別・人権侵害の認識

問 13 では、同和地区に対する差別や人権侵害があると思うかという認識について、日常の場面ごとに分けて質問した。

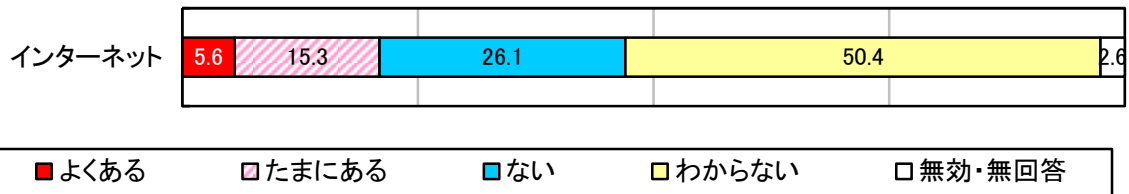


質問中、同和地区の人に対する差別や人権侵害が「ある」と言う認識が、「ない」を上回ったのは、「(A)結婚や交際」の場合で、「ある」と言う認識は、41.45%（「よくある」9.58%、「たまにある」31.87%）であった。

次に「ある」という認識が高かったのは、「(C)地域・近所づきあいや、住まいの問題」で、「ある」という認識は23.36%（「よくある」4.69%、「たまにある」18.67%）であった。

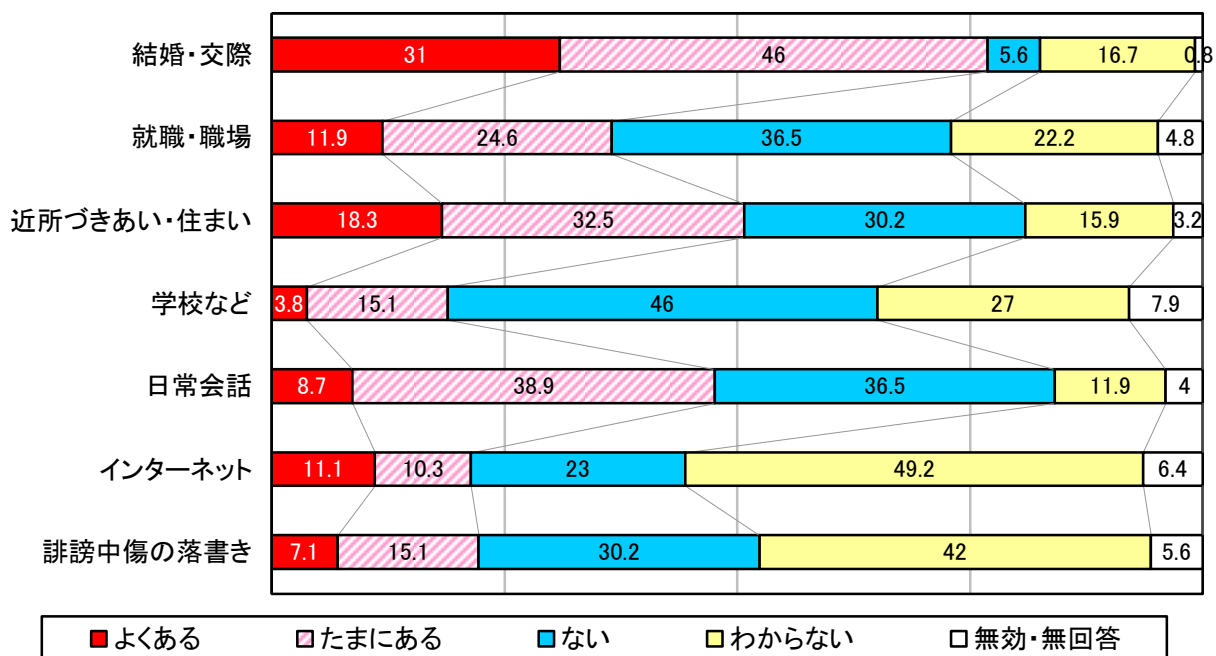
他では、「(B)就職のときや職場」の18.87%と「(E)日常の会話」の17.40%、「(D)学校等」の9.09%と「(F)インターネット上の誹謗・中傷するような書き込み」の10.85%と「(G)誹謗・中傷するような落書き」の10.36%が「ある」という認識で同水準となった。

回答比較（桃問 23 普段の生活の中で情報を得る方法に「インターネット」を選んだ人）

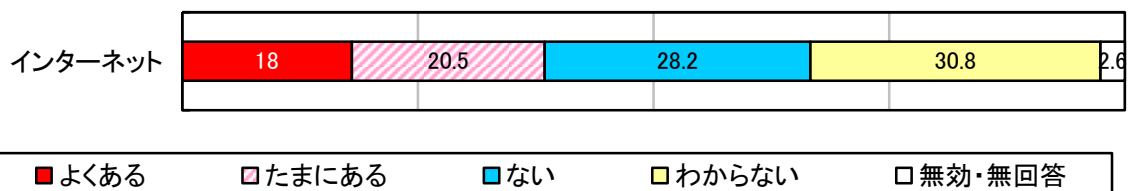


桃票問 23 の「あなたが、普段の生活の中で、情報・知識を得る方法はどのようなものですか」という質問で「(F)インターネット」を選んだ人の回答を見てみると、同和地区の人に対する差別や人権侵害を 20.90%の人が「ある」（「よくある」5.60%、「たまにある」15.30%）と認識している。

回答比較（問 11 で差別的言動を見たことが「ある」と答えた人）

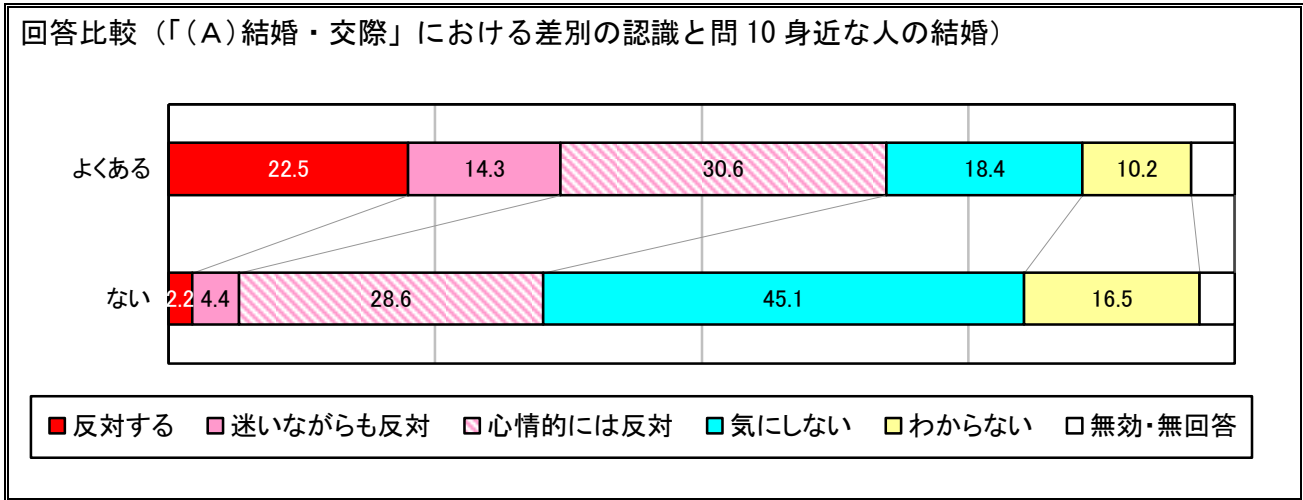


回答比較（桃問 23 普段の生活の中で情報を得る方法に「インターネット」を選んだ人で、問 11 で差別的言動を見たことが「ある」と答えた人）



問 11 の「同和地区に対する差別的な発言や言動を日ごろの暮らしの中で直接見たり聞いたりされたことがありますか」という質問で、「ある」と答えた人の回答では、現在、同和地区の人に対する差別や人

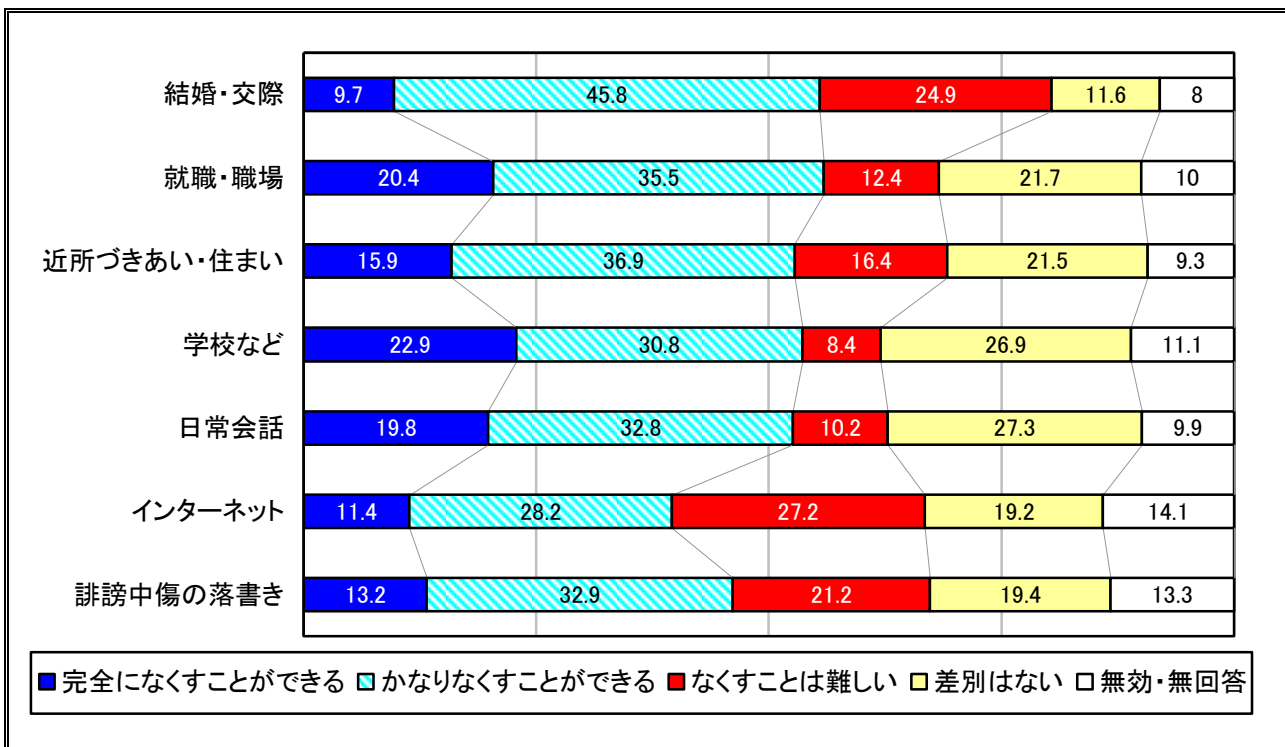
権侵害が「ある」という認識が、「ない」を上回ったのは、「(A)結婚や交際」の76.98%、「(C)地域・近所づきあいや、住まいの問題」の50.79%、「(E)日常の会話」の47.62%と、インターネットを使っている人の「(F)インターネット上の誹謗・中傷するような書き込み」の38.46%であった。



「(A)結婚や交際」の場面における、同和地区出身者への差別や人権侵害の認識と、問10の「お子さんなど、あなたの身近な人が次のそれぞれの人との結婚を望んでいる場合、あなたはどのような態度をとられますか」での「(D)同和地区出身者」の場合の回答の相関関係を見てみると、差別があると感じる場合、結婚に反対するという意見を持つ人が多くなる傾向にあることがわかる。

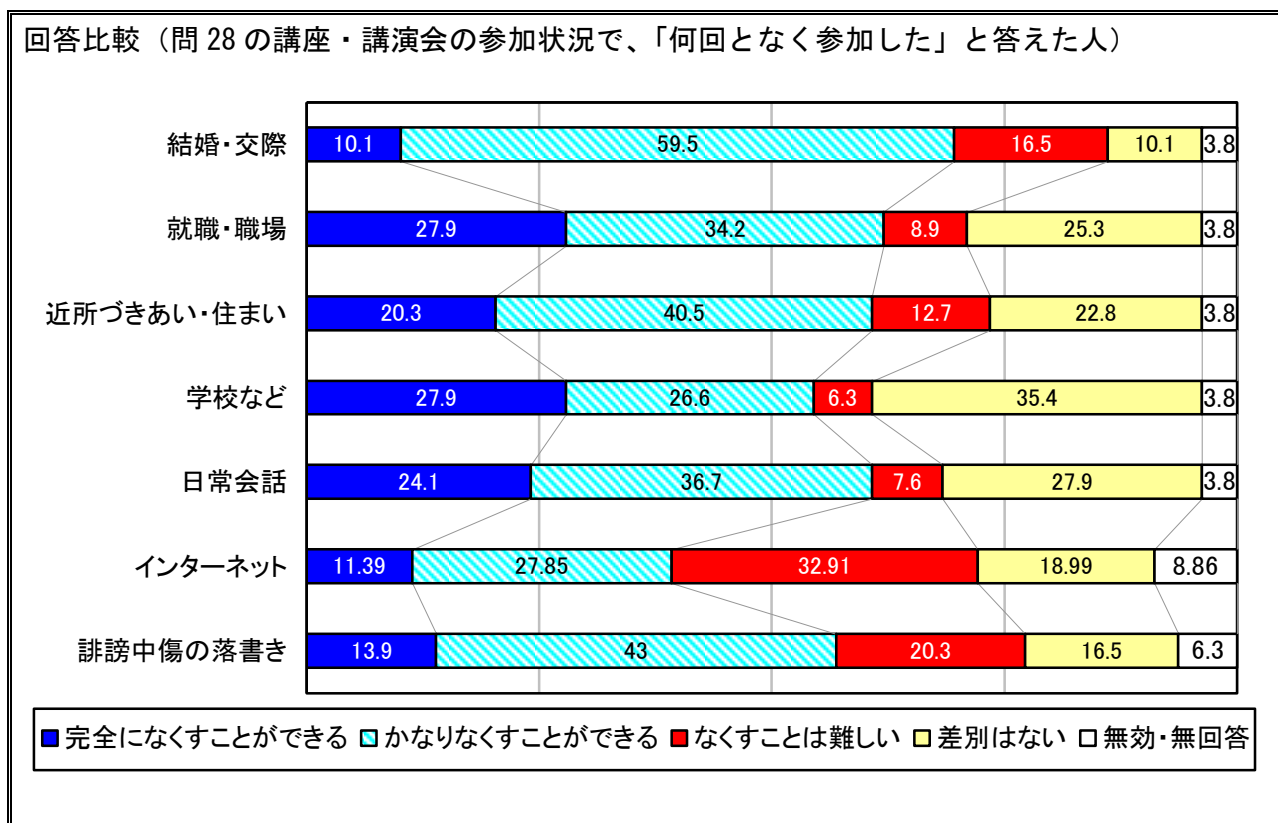
■ 問題解決への展望

問14では、同和地区に対する差別や人権侵害を将来なくすことができるかという展望について、問13の日常の場面ごとに質問をした。



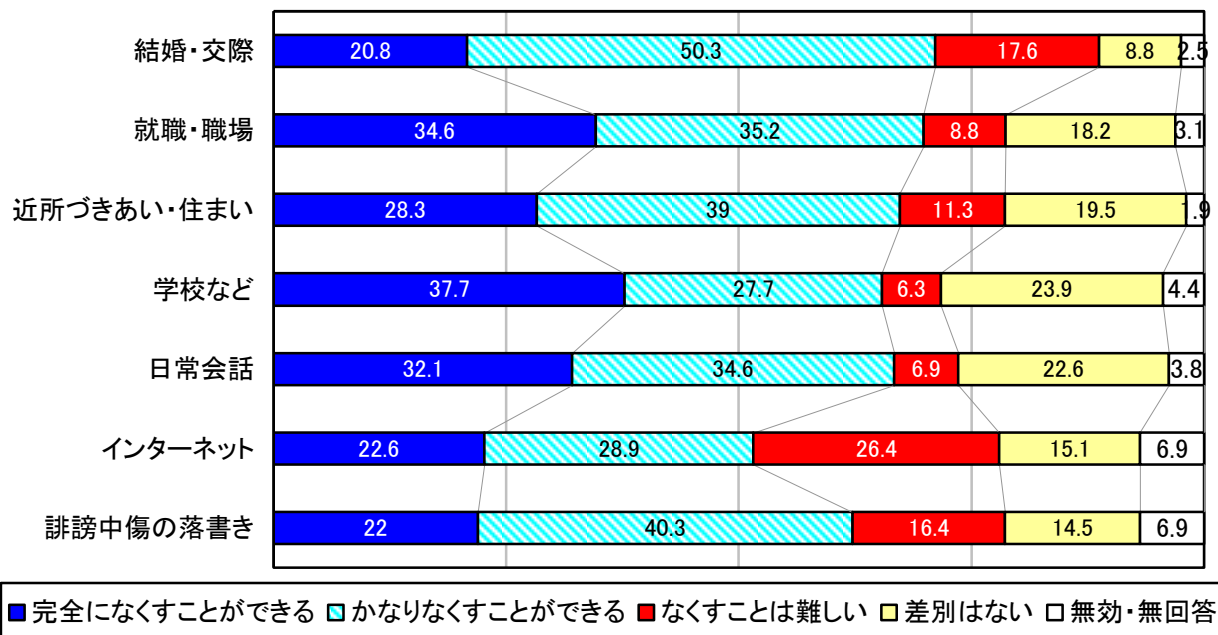
同和地区の人に対する差別や人権侵害をなくすことができる（「完全になくすことができる」、「かなりなくすことができる」という意見が、全ての項目においてなくすことが難しいを上回る結果となったが、「(F)インターネット上の誹謗・中傷するような書き込み」の39.59%や、「(G)誹謗・中傷するような落書き」の46.14%のように、匿名性の高い場面においては、なくすことができるという意見が過半数に満たなかった。

また、「(A)結婚・交際」、「(C)地域・近所づきあいや、住まいの問題」、「(F)インターネット上の誹謗・中傷するような書き込み」、「(G)誹謗・中傷するような落書き」では、差別や人権侵害を完全になくすことができるという意見が、なくすことは難しいという意見を下回った。



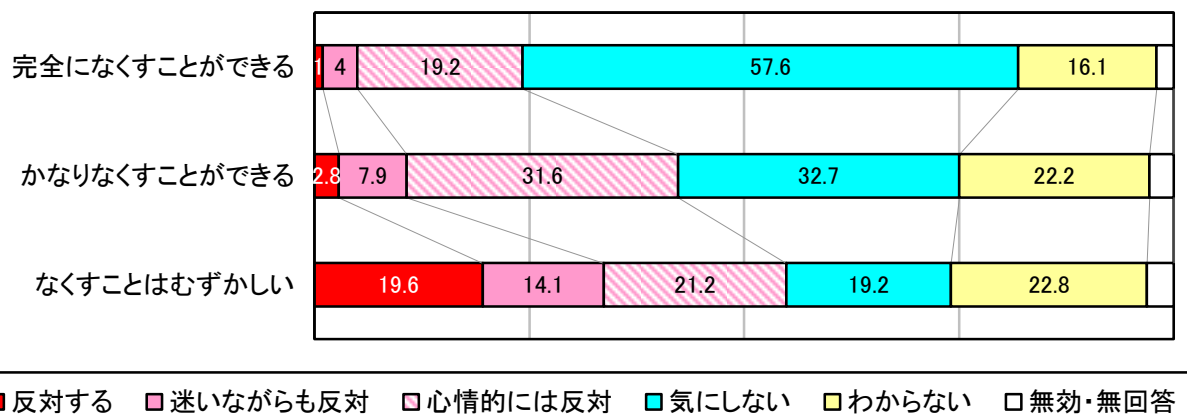
問28の「講演会・講座などにここ2～3年のうちに参加されたことはありますか」という質問で、「何回となく参加した」と答えた人の回答と比較すると、「(F)インターネット上の誹謗・中傷するような書き込み」を除いて、講演会・講座に参加した人ほど、同和地区の人に対する差別や人権侵害をなくすことができるという展望をもつ傾向にあることがわかる。

回答比較（問12で「誤りを指摘し、話し合った」と回答した人



問12で、同和地区に対する差別的な発言や言動を見たとき、「誤りを指摘し、話し合った」と答えた人の回答を比較してみると、すべての場面において、解決できるという展望を高い水準で抱いているのがわかる。

回答比較（「(A)結婚・交際」の解決の展望と問10身近な人の結婚）

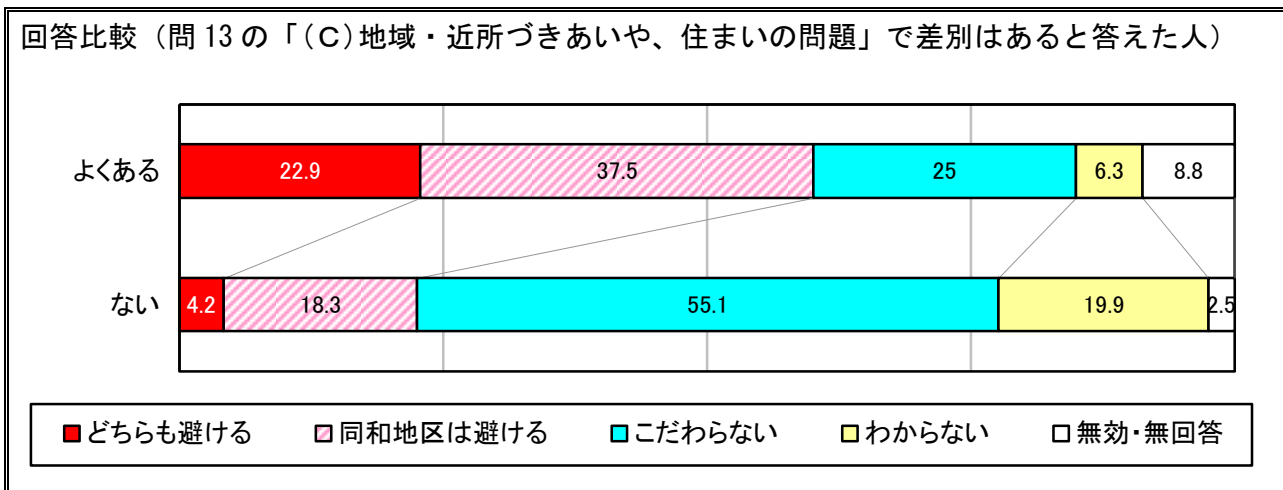


「(A)結婚や交際」の回答別に、問10の「お子さんなど、あなたの身近な人が次のそれぞれの人との結婚を望んでいる場合、あなたはどのような態度をとられますか」での「(D)同和地区出身者」の場合の回答割合を見てみると、問14の「(A)結婚や交際」の場面で、同和地区の人に対する差別や人権侵害をなくすことができるという展望をもつ人ほど、結婚の場合において、反対をしないという意見を持つ傾向にあることがわかる。

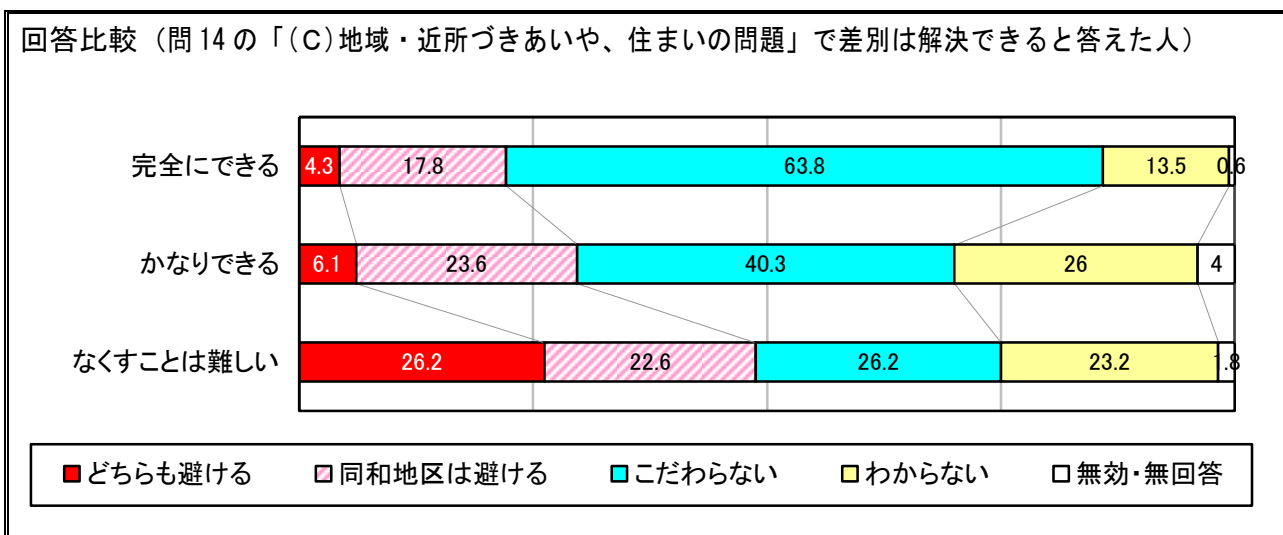
■ 土地や住まいに対する意識

問 15 では、家（土地）購入や、アパートなどへの居住の場合における同和地区に対する意識について質問した。

「同和地区」と「同和地区と同じ小学校区にある物件」について、どちらも「避けると思う」と答えた人は 8.80%、「同和地区にある物件は避けるが、同じ小学校区にある物件は避けないと思う」と答えた人は 18.28%、「こだわらない」と答えた人は 43.50%、「わからない」が 24.83%と、こだわらないと回答した人が最も多かった。



問 13 「現在、同和地区の人に対する差別や人権侵害があると思いますか」の「(C)地域・近所づきあいや、住まいの問題」で差別や人権侵害が「ある」と答えた人の回答を比較してみると、差別や人権侵害が現在もあると認識している人ほど、同和地区を避けようとする意識が強くなる傾向にあることがわかる。

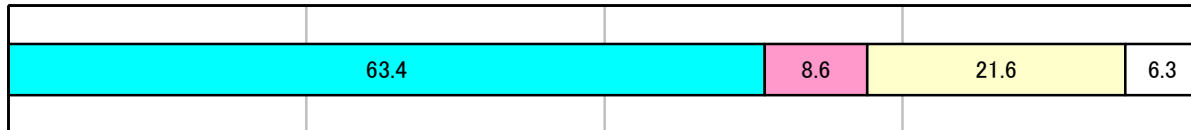


問 14 「あなたは近い将来、それらの同和地区の人に対する差別や人権侵害をなくすことが出来ると思いますか」の「(C)地域・近所づきあいや、住まいの問題」の回答別に、土地や住まいに対する意識を見ると、差別や人権侵害をなくしていくことが出来るという展望を持っている人ほど、避けようとする意識が低くなることがわかる。

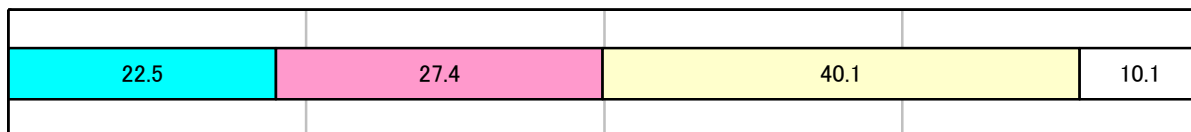
■ 同和問題の解決方法

問 16 では、同和問題の解決や差別をなくすために重要だと思うことを尋ねた。

回答比較（問 2 差別観）



問 2 (C) あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある。

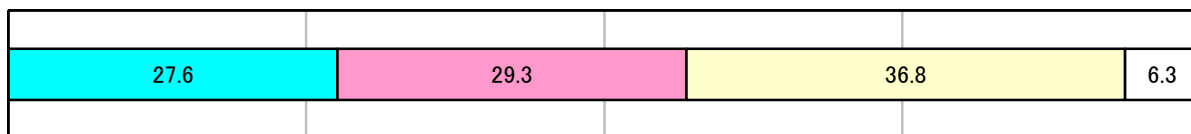


(A) 一般的な行政施策の中で、同和地区住民の自立を支援する。

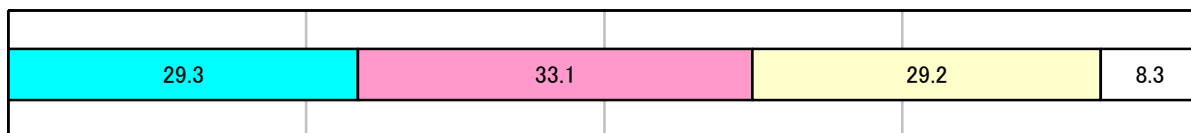
そう思う
 そう思わない
 どちらとも言えない
 無効・無回答

差別観を調査した問 2 「(C) あらゆる差別をなくすために、行政は努力する必要がある」との回答を比較すると、問 2 では、「そう思う」という意見が過半数を超えて他の意見を大きく上回ったが、「(A) 一般的な行政施策の中で、同和地区住民の自立を支援する」では、賛否が分かれている。

回答比較（問 2 差別観）



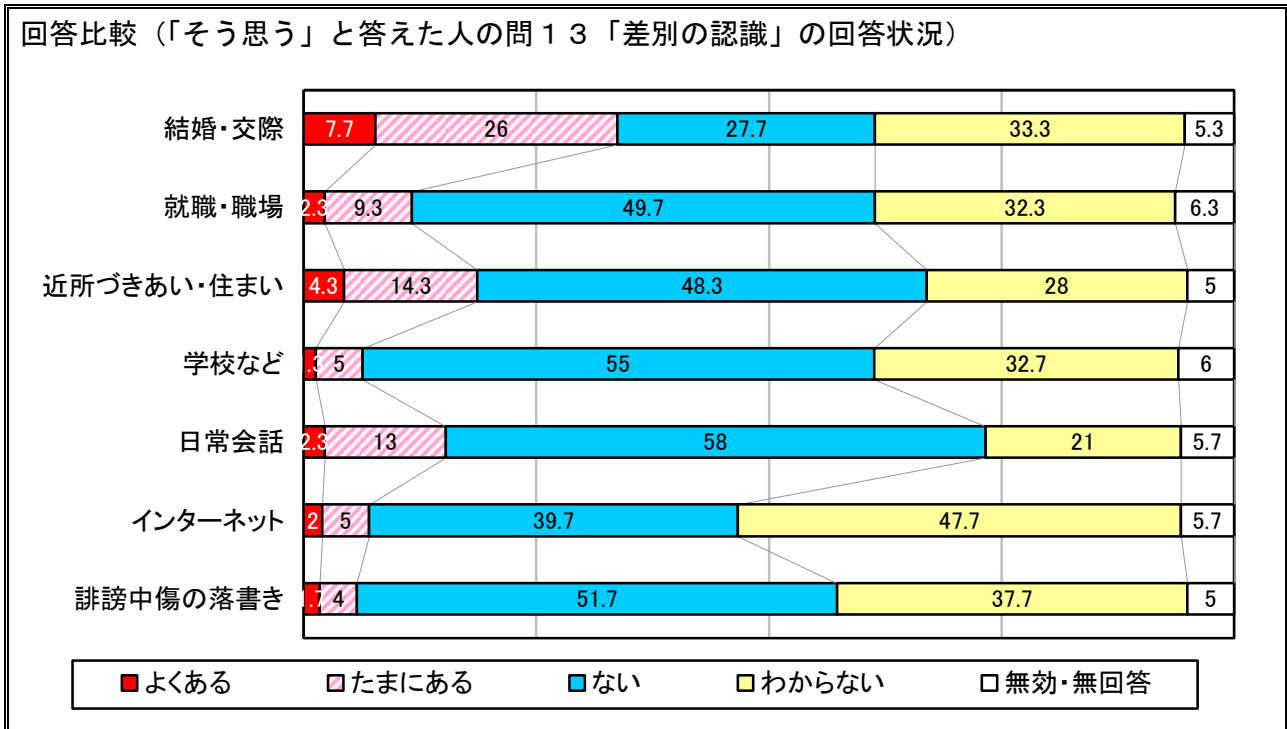
問 2 (J) 差別を大きく取り上げれば、かえって問題が解決しにくくなる。



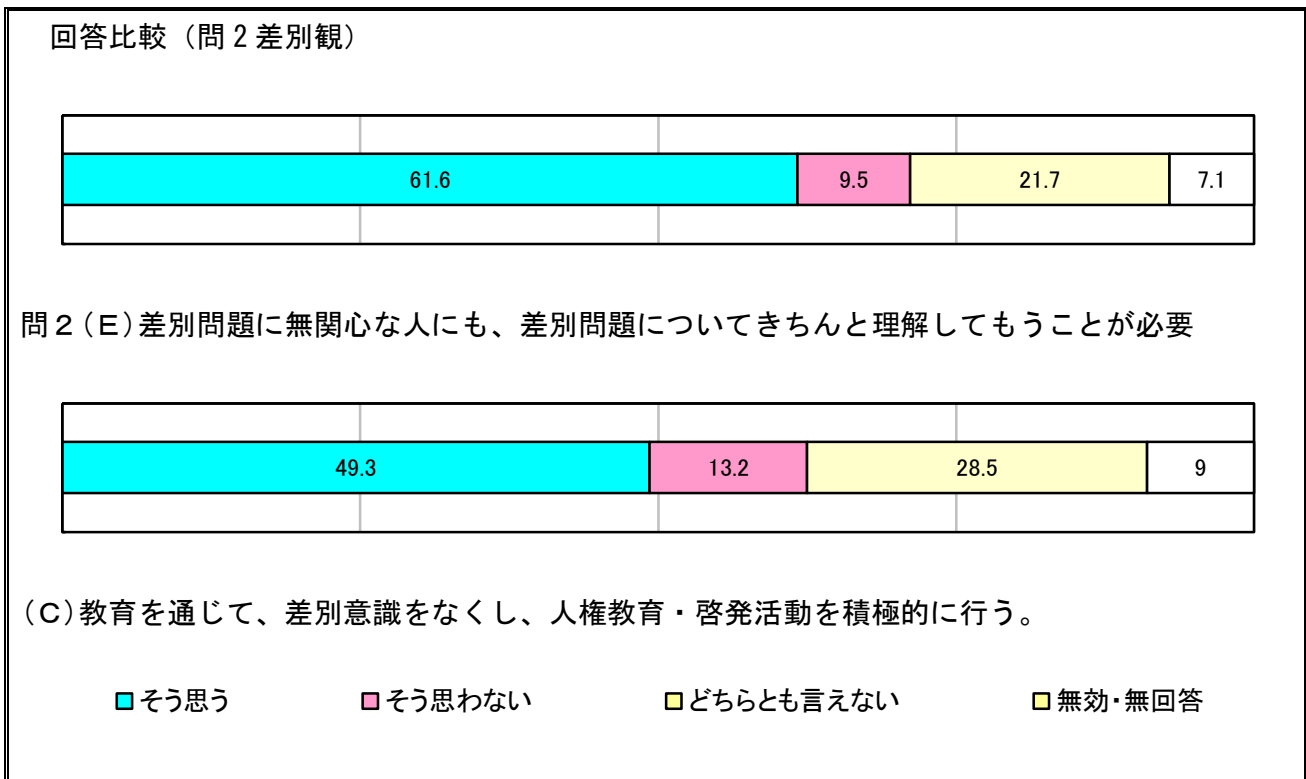
(B) 同和地区のことや差別があることを口に出さなくて、そっとしておけば「差別」はなくなる

そう思う
 そう思わない
 どちらとも言えない
 無効・無回答

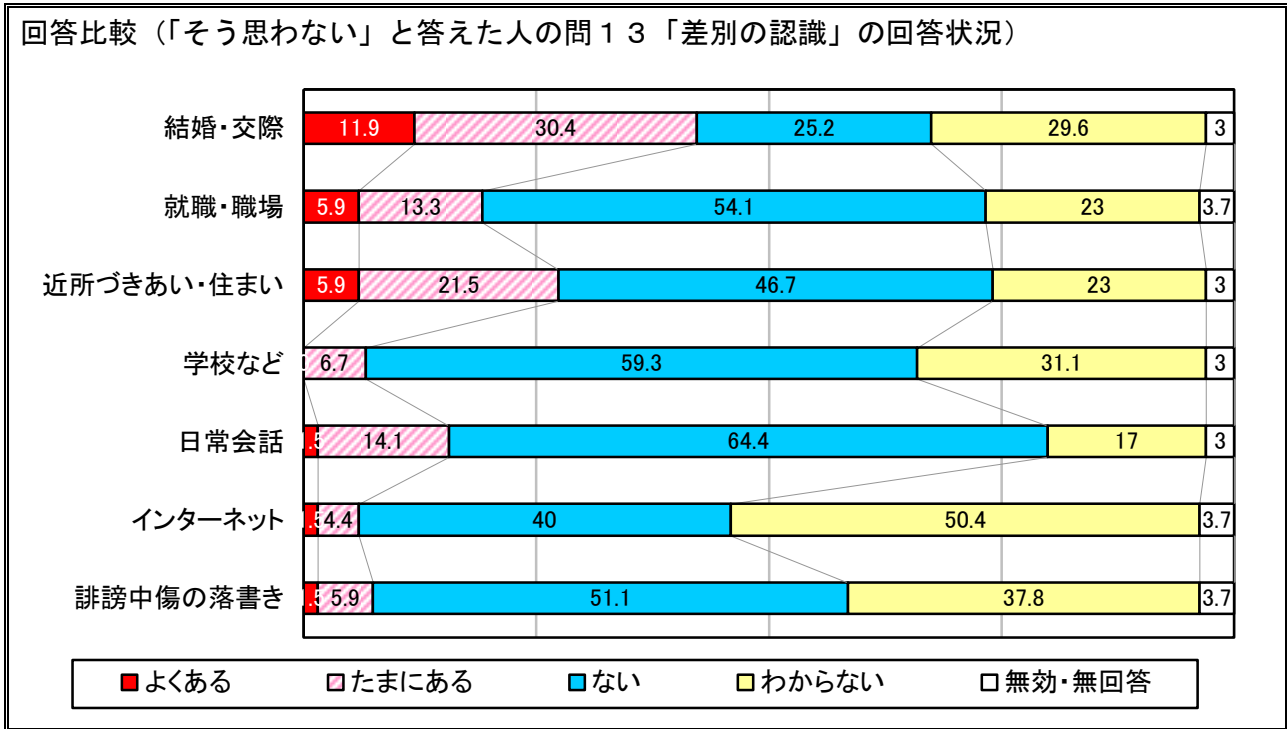
同じく問2の「(J)差別を大きく取り上げれば、かえって問題が解決しにくくなる」と比較すると、問2、「(B) 同和地区のことや差別があることを口に出さないで、そっとしておけば差別はなくなる」のいずれも賛否が分かれる結果となった。



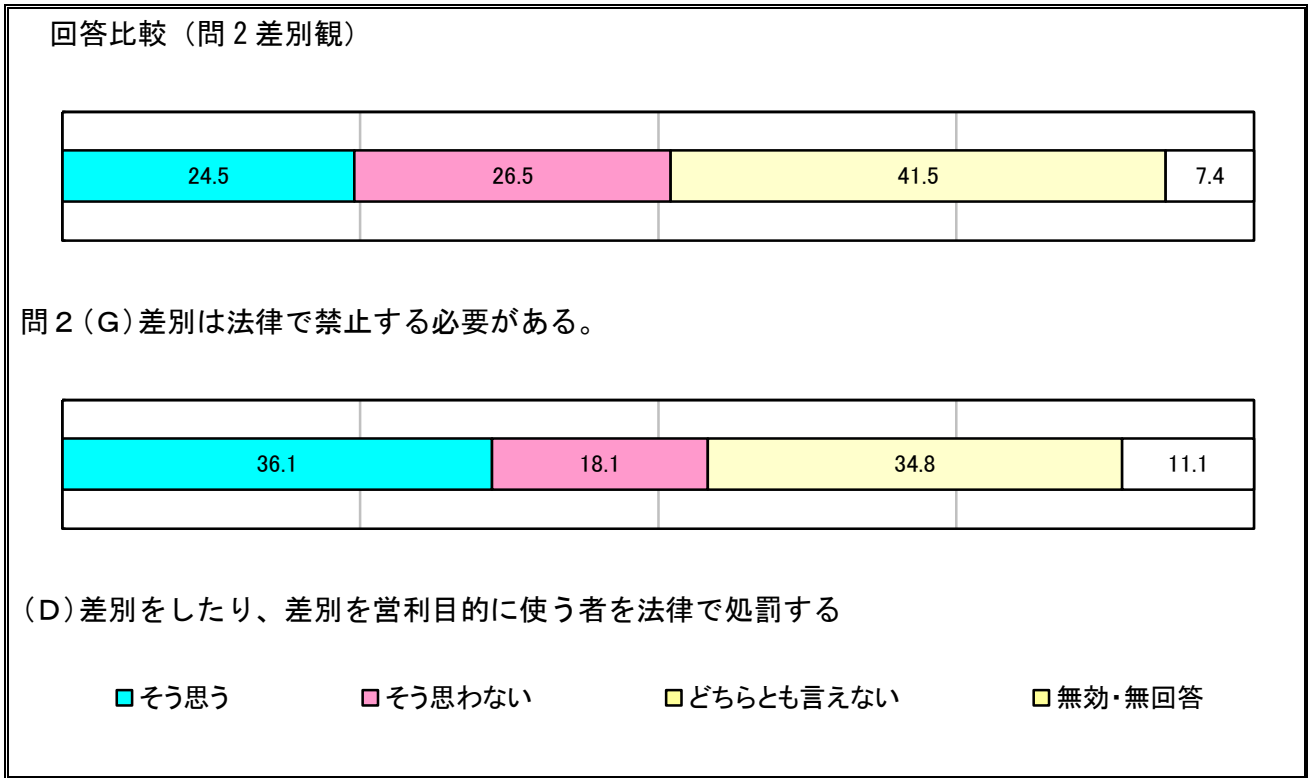
「(B) 同和地区のことや差別があることを口に出さないで、そっとしておけば差別はなくなる」で「そう思う」と答えた人の、問13「現在、同和地区の人に対する差別や人権侵害があると思いますか」の回答を比較してみると、すべての場面において、全体集計に比べ「差別はない」という認識が増えていることがわかる。



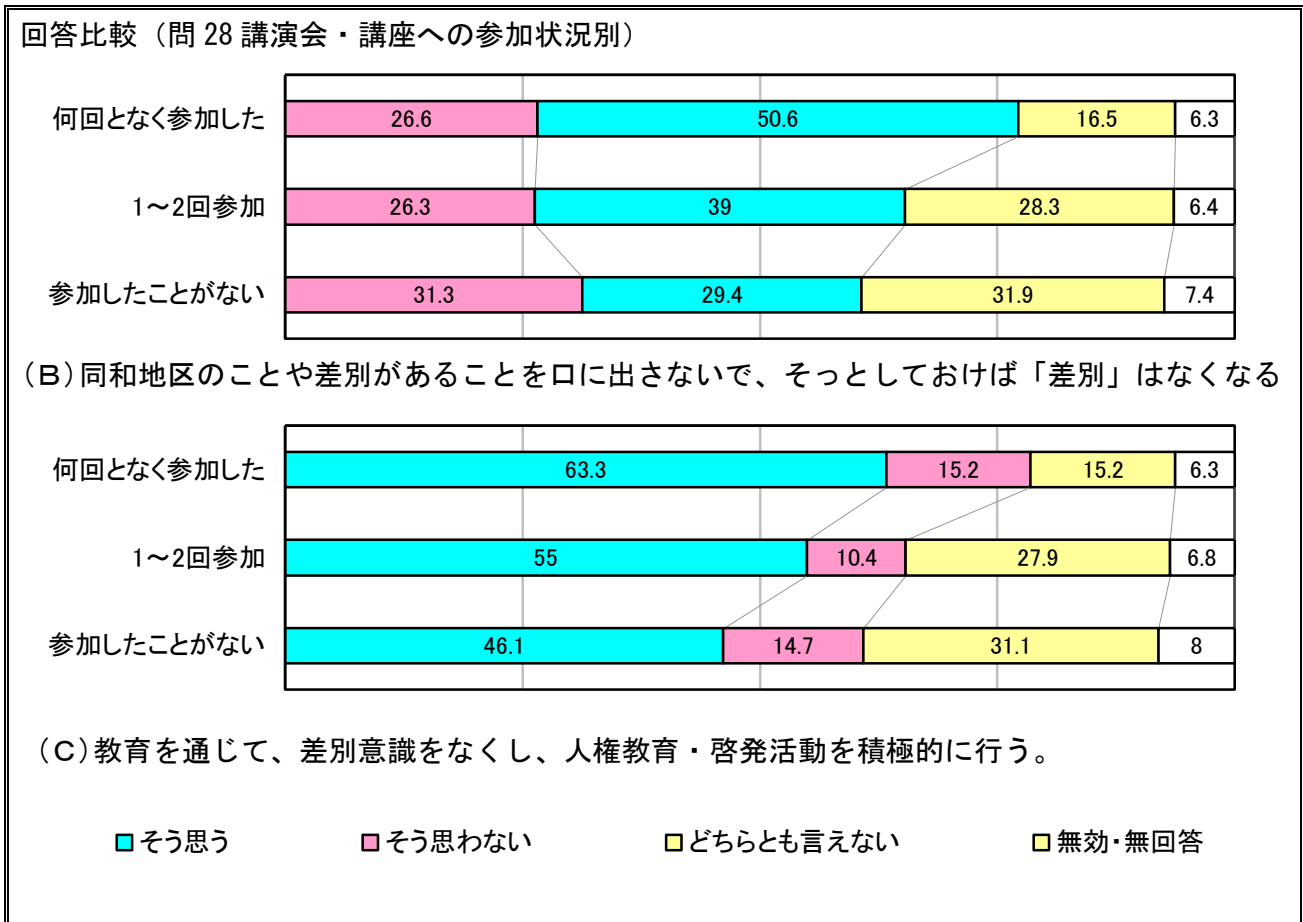
問2の「(E)差別問題に無関心な人にも、差別問題についてきちんと理解してもらうことが必要」と比較すると、問2、「(C)学校教育・社会教育を通じて、差別意識をなくし、人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」いずれもで、「そう思う」という意見が他の意見を大きく上回る結果となった。



「(C)学校教育・社会教育を通じて、差別意識をなくし、人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」で「そう思わない」と答えた人の、問13「現在、同和地区の人に対する差別や人権侵害があると思いますか」の回答を比較してみると、すべての場面において、全体集計に比べ「差別はない」という認識が増えていることがわかる。



問2の「(G)差別は法律で禁止する必要がある」との比較では、問2では、賛否が分かれる結果であったが、「(D)差別をしたり、差別を営利目的に使う者を処罰する」では、「そう思う」という意見が他の意見をやや上回る結果となった。



同和問題の解決のために、同和地区に対する差別や人権侵害を取り上げ、教育することについて「(B) 同和地区のことや差別があることを口に出さなくて、そっとしておけば差別はなくなる」、「(C) 学校教育・社会教育を通じて、差別意識をなくし、人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」それぞれの質問を、問28の「講演会・講座などにここ2～3年のうちに参加されたことはありますか」という質問の回答別に比較した。

いずれの場合も、講演会・講座への参加経験（意欲）が高いほど、同和地区に対する差別や人権侵害を取り上げて教育することに肯定的である結果となった。